

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 3 月 8 日

所 属： 獣医学部 動物応用科学科

氏 名： 伊藤潤哉 職位：教授

役 職： 教育方法開発センター長，学長補佐，他

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

動物繁殖学：動物繁殖学は，動物応用科学の中でも根幹をなす学問である．必修科目であることから，動物，とくに哺乳類に共通した繁殖生殖メカニズムや，一方で動物種ごとの違いについて基礎的な部分を身に着けるよう講義を行った．また，学生がより興味を持てるように現在社会問題となっている不妊症や家畜の繁殖率の低下など時事問題と絡めて講義を行っている．

動物分子生殖科学：動物分子生殖科学は，動物応用科学の中でも根幹をなす学問である．動物繁殖学に引き続き，動物，とくに哺乳類に共通した繁殖生殖メカニズムや，一方で動物種ごとの違いについて「分子」をターゲットとして，動物繁殖学の内容についてより深く理解できるように講義を行った．また，学生がより興味を持てるように現在社会問題となっている不妊症や家畜の繁殖率の低下など時事問題と絡めて講義を行っている．

動物受精卵移植論：動物受精卵移植論は，動物応用科学の中でも根幹をなす学問である．動物繁殖学・動物分子生殖科学に引き続き，動物，とくに哺乳類における共通した繁殖生殖メカニズムや，一方で動物種ごとの違いについて「受精卵移植」をターゲットとして，動物繁殖学・動物分子生殖科学の内容についてより深く理解できるように講義を行った．また，学生がより興味を持てるように現在社会問題となっている不妊症や家畜の繁殖率の低下など時事問題と絡めて講義を行っている．

動物生殖制御論：動物生殖制御論は，動物応用科学の中でも根幹をなす学問である．動物繁殖学・動物分子生殖科学・動物受精卵移植論に引き続き，動物，とくに哺乳類における共通した繁殖生殖メカニズムや，最先端の生殖制御技術を紹介することで，これまで学んできた動物繁殖学・動物分子生殖科学・動物受精卵移植論の内容についてより深く理解できるように講義を行った．また，学生がより興味を持てるように現在社会問題となっている不妊症や家畜の繁殖率の低下など時事問題と絡めて講義を行っている．

動物繁殖学実習・家畜人工授精特別実習：繁殖学・生殖学は動物応用科学の中でも根幹をなす学問である．動物繁殖学・動物分子生殖科学等で学んだ動物，とくに哺乳類における共通した繁殖生殖メカニズムや，一方で動物種ごとの違いについて，実習を通して理解を深める．また，学生がより興味を持てるように現在社会問題となっている不妊症や家畜の繁殖率の低下など時事問題と絡めた実習を行っている．

専門ゼミ・科学の伝達・卒業論文：文献紹介や progress report を通して，双方向の演習を

行うことを心掛けている。

科目名	学科・専攻	必，選， 自	配当年次	受講者数
動物繁殖学	A	必修	2	152
動物分子生殖科学	A	選択	3	81
動物受精卵移植論	A	選択	3	60
動物生殖制御論	A	選択	4	20
生殖生理・不妊症学	M	選択	4	20
動物繁殖学実習	A	選択	3	67
家畜人工授精特別実習	A	選択	4	36
専門ゼミ	A	必修	3	6
科学の伝達	A	選択	4	6
卒業論文	A	必修	4	6
地球共生論	VAMFE	必修	1	600

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

あらかじめ図を挿入したスライドを用い、iPad に板書する形式で講義を行っている。学生自身は講義を聞きながら、タブレットあるいはあらかじめ印刷した紙に記入する形で、理解を深めていく。講義中は「社会問題など身近な話題を提供することなどで学生の学問に対する興味を高める」「アクティブラーニング的要素を取り入れる」「双方向性を重要視し、講義中あるいは講義後に学生に対する質問を多く投げかける」を通して、学生が自主的に学び、自分の興味を追求できるようにする。その中で、データサイエンスやサイエンスリテラシーが次第に身につくように工夫する。これを通して、答えのない実社会で、臨機応変に対応して、自主的に作業し、成果をだせるような人材育成を目指す。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

2とも関連するがあらかじめ図を挿入したスライドを用い、iPad に板書する形式で講義を行っている。学生自身は講義を聞きながら、タブレットあるいはあらかじめ印刷した紙に記入する形で、理解を深めていく。特に高校時には生物の科目はあるものの哺乳類の生殖についてはほとんど取り扱っておらず、もともとは学生の興味も薄い。そこで講義中は「社会問題など身近な話題を提供することなどで学生の学問に対する興味を高める」「アクティブラーニング的要素を取り入れる」「双方向性を重要視し、講義中あるいは講義後

に学生に対する質問を多く投げかける」を通して、学生が自主的に学び、自分の興味を追求できるようにする。その中で、データサイエンスやサイエンスリテラシーが次第に身につくように工夫する。これを通して、答えのない実社会で、臨機応変に対応して、自主的に作業し、成果をだせるような人材育成を目指す。

アクティブラーニングについての取組

学生と対話形式で授業を進めることでアクティブラーニングに取り組んでいる。

ICTの教育への活用

タブレットを利用し、書き込む形で講義を行っている。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業，実習）の創意工夫（A～C） A

学生からは高評価を得られていると感じている。

②学生の理解度の把握（A～C） A

授業中に対話を行うことで、学生の理解度を把握するよう努めている。必要に応じて追加で説明するなどしている。

③学生の自学自習を促すための工夫（A～C） B

課題を提示することで自学実習をうながしている。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A～C） A

授業中に対話を行うことで、学生とコミュニケーションをとっている。

⑤双方向授業への工夫（A～C） A

授業中に対話を行うことで、学生とコミュニケーションをとっている。

5. 学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

おおむね高評価であったが、板書の文字が小さいなどの意見が一部あったため改善に努めた。

② ①の結果はどうでしたか。

評価はよかった。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

引き続き学生の理解を高めるような授業を行っていく。

6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

対話による理解度の向上，板書を中心として学生に作業をさせることによる理解度の向上

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

学生からの授業評価は高いと感じている。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）

学内の FD には参加し，よりより授業を行うための取組みを取り入れるよう心掛けた。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

より多くの学生が，生殖学や繁殖学に興味を持ち，また本来身に着けるべき知識や技術が全員に身につくような授業を心掛けたい。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので，資料名のみを記載してください。

特になし